

# アカタン砂防の巨石文化に迫りたい。



## 松ヶ端堰堤の巨石の謎を探検

2mに及ぶ巨石で積まれた砂防堰堤から、先人たちの壮絶な労働の美と、防災への情念を彷彿させる。整然と組まれ100年余の土砂を受け止め、巨大な地震に耐え、しかもひとつも歪みもない。この巨石をどこで掘り出し、どのような方法で運搬したのか。そしてどうやって持ち上げて組んだのか、全く謎である。

来年はその謎に迫る探検チームをつくるので参加者を募集します。

写真は、巨石の大きさを測る伊藤喜右エ門会長。（撮影：たなかやすし）

## 秋の祭りにアユのすし たくら料理の達人探し



## アカタン砂防が 『登録有形文化財』 に登録された。

山林の過度な伐採に起因した山地の荒廃と土砂流出などへの対策として造られたアカタン砂防群は、日本古来の土木技術を駆使した歴史的砂防施設だ。逞しい巨石を組み、女性的ななめらかな曲線美は、赤谷の風景にすっぽりと包まれている。訪れる人々は、先人たちの土木技術の感性に、ただ、ため息するばかり。今年も多くの人々がわたしを観にやってきた。

写真は、鎌倉からやってきた養老猛さん。都市と山村の参勤交替を提案している。撮影：はしもとてつお



# 盆のヤンシキには哀しい文句がひそんでいる。

宅良の歴史音頭の文句から、先人の暮らしを探検

「さればこれからヤンシキおどり 盆や祭りに踊らぬ者は 足はすりこぎ手はてんぼうじや 踊りそろたら文句にかかる」と音頭取りが文句をうたいだす。「流れ出したる宅良の川は 東西に流れて十三キロと 川に沿いし集落の数久喜にはじまり十一ござる」田倉川流域の村々の歴史音頭が続く「一番はじめが久喜集落で 戦国時代の一一向一揆 家は焼かれて悲しい歴史 次の集落長沢にして 白山神社の五輪の塔は 戦国時代の幾多の武士や 僧侶や村人悲しい最後この靈供養にたてたるものと次の集落馬上面というて 柚山城の侍たちが お宮の前をお馬にのって 通る度毎馬から落ちる」戦国時代の悲しい文句が綴られている。アカタン砂防のある古木の村は「宅良の中でも大きい村よ 村の入り口



在所もなくなった。五番目の集落上温谷では「南に面して日あたりも良く 村の役場や診療所よ」とうたわれているが、すでにその施設もなくなった。次の集落小倉谷では慈眼寺や多留見谷口お薬師さまの悪病退治をうたっている。七番目の瀬

ってきたと」当時は手仕事で栄えた村であったが廃村となり面影もない。「三八豪雪さかいといたし いまは全員村をば離れ 自然の中に静かに眠る」。

「杉谷と柚木俣は池田の別れ府中武生の白崎城主 仕えた家来の五人衆の中の 中井善慶太右工門さんが 杉谷村へと隠居をなされ お庭作りやうたいを教え いまも伝わり名残をのこす 柚木俣から池田を越える 大坂峠は裏街道で 昔は重要な峠であった敦賀の松原処刑になった水戸の浪士が雪ふる中を 越えてきたのもこの道とやら」この二つの集落も過疎の波が押し寄せてきている。以上は語り部であり音頭取り名人の権八實（ごんぱみのる）さんが作詞し平成十二年の盆に発表した宅良の歴史音頭文句から抜粋した。権八實さんの連絡先は、今庄町古木 25-3TEL0778-45-1901

来年は田倉川流域の先人たちの手仕事や民間風俗を探る探検をしたい。参加者を募集します。

写真は、今年八月に開催した川に学ぶ全国大会の音頭をとる権八さん。大きな提灯は古木の神明神社のもので、毎年お盆や祭りに灯りをともし、その下を輪になってヤンシキをおどってきた。撮影：たなかやすし



石碑がござる 村の奥にも石碑がござる 疫病退治にたてたるものと」「昔の歌の文句にのこる 古木よいとこ宅良の都 糸繰りはたやが十五軒と絲ひきむすめが百人もいて宗派七派にお寺が五ヶ寺 郵便局に駐在所もあり 旅館や農協に小学校あり 電気やバスも古木まで」とうたっている。昔は栄えていたことを物語っている。現在は、はたやも小学校もなくなり、旅館もやめてしまった。お寺も三ヶ寺となり駐

をうたっている。「瀬戸で名高い二十と三夜 日野山まつりに村人たちが 訪った留守中に火災となって 村のほとんど焼け出されたと それから日野山まいりはやめて 白山神社でお祭りをして いまも残るが二十と三夜」毎年八月の二十三日白山神社に宅良の住民が集まりやんしきをおどる。瀬戸の奥には高倉谷と芋が平の二集落があった。「免許皆伝木地師の村よ 近江の国から渡ってきたと 芋が平も木地師の村よ 美濃の国から渡